

**みんなが豊中のために、**

**豊中はみんなのために。**

～大好きな豊中のために何ができるか、一緒に考えましょう～

**松岡あきみち豊中ビジョン 2014**

# 温故創新

豊中を明るく元気にしたい！！  
豊中に人や企業が集まってくるため、  
豊中を選んでもらうため、  
豊中といえば〇〇！！というブランドが必要です。

豊中には豊中独自の歴史と文化があります。  
こうしたオリジナリティーをしっかりと過去に学びたいと思います。  
そのうえで新しいもの創り、これからの歴史を創ります。

私たちが元気になれば、豊中も元気になる。  
私たちが豊中を愛するように、  
豊中に愛されていることを感じる町にしたい。

私のビジョンの多くは府や国の権限に属するもの、  
法律改正が必要になるものがあります。  
しかしながら、豊中を明るく元気にするため、  
国や府へ丁寧に説明し、予算をつけながら実行していきます。

半世紀後を見届けられる責任世代。  
私が先頭に立ち、将来の夢と希望と憧れをもてる豊中を創ります。  
豊中が「私たちの暮らしを守り、豊かにする」ことを目指します。

豊中は財政非常事態が常態化している十余年のあいだに、  
多くの市町村のの背中を見ながら走るようになりました。  
追いつくため、追い越すため、先頭を走るため、  
温故創新の理念のもと、とよなか創政記を進めることに、  
ご理解いただきたいと思ひます。

平成 26 年 4 月 29 日

まつおかあきみち  
松岡信道

## しがらみにタックル、みなさんとスクラム、改革にトライ

<はじめまして、松岡あきみちです>

0. 信じる道をすすむ。

<出馬に際して>

1. 豊中のみなさまへ。

<選挙に行く前に知ってほしいこと>

2. 哀訴～なぜ選挙に行くのか。

～市の政治とは何か

<豊中が目指すべき将来像>

3. とよなか創政記

<基本理念と4つのトライ>

4. みんなが豊中のために、豊中はみんなのために。

<感情論ではない冷静な議論を>

5. 大阪国際空港について

<豊中から日本を動かすために>

6. 大阪都豊中市よもやま話

## 0. 信じる道をすすむ。

私はしんでん幼稚園、市立南丘小学校、市立第九中学校と豊中の公教育をうけ、豊中の地域力に育てていただきました。幼少期を振り返ると、幼稚園を抜け出すくらいのやんちゃな少年でしたが、学級委員はもちろん、児童会長、生徒会長、中学生シンポジウム実行委員長を務めて常に人の輪に入り、みんなで議論し、行動し、いつも学校づくりを考える子どもであったと思います。中学で生徒会長の時に夏服のカッターシャツをポロシャツにすること決め、地域の制服屋さんが慌てて学校に押し掛けたというエピソードは今でも懐かしい思い出です。

高校に進学してからはラグビーに明け暮れる毎日でしたが、鎖骨骨折をきっかけに生徒会長を務めました。生徒会予算の再編成、学校行事の刷新、海外の高校との姉妹校提携など、やはり学校づくりに必死の学生であったと思います。今でも母校に帰ると、当時の行事がそのまま継続されていたりするの、とても感慨深いものがあります。将来の夢を「政治家」と思うようになったのは、まさにこの頃でした。

浪人という挫折を経験して大学に進学すると、私は政治学を専攻するかたわら、地域づくりやまちづくりを考えるようになりました。親の転居にともない箕面市民となっていました。箕面市民というご縁だけで西川きよし参議院議員（当時）の事務所で、国政を学ばせていただき、「私も政治家になりたい」と言うと、「小さなことからコツコツとやりなさい」と叱咤激励されたことは今でも忘れられません。そこで、私は自分の身丈で政治ができると思い、地方政治に関心をもつようになりました。その後、箕面市公共下水道事業運営審議会委員を務め、池田市長のインターンシップ、茨木市議会議員インターンシップを通じて北摂のこと、地方議会のこと、地方行政のことを学ばせていただきました。私の議員活動の礎がここにあったことは間違いありません。

JA バンク大阪に就職して、私は親から独立するため豊中市に戻りました。仕事は融資を担当することで経済、社会、金融はもちろん、農業、環境、食育、消費生活に関わることを学びました。数多くの会社を訪問し、企業経営、財務、法務なども勉強させていただきました。こうした経験が議員としての専門分野になっていることは言うまでもありません。就職してからも NPO を立ち上げて教育支援のボランティアをするなど、まちづくりを忘れることはありませんでした。

政治の道を志し、退職しました。無職で過ごした期間は、仲間に支えられました。

私は、自分の信じる道をすすみたいと思います。

そして、みなさんと一緒に豊中のことを考え、

この豊中から日本を動かしていきたいと思います。

# 1. 豊中のみなさんへ

こんな私が26歳で豊中市議会議員に立候補したのは、多くの竹馬の友が就職や結婚を機に、相次いで豊中市から転居していくのを黙って見ていられなかったからです。

若い世代が集い、壮年世代が支え、老年世代が安心してらせる町にしたい。そのためにしなければならなかったのは、財政再建です。自分の専門分野を活かした集中と選択の取り組みを提言してきましたが、総花的な市政運営がなされています。根本的な財政再建は行われず、いまだ赤字体質です。私が老年になったとき、「おまえ、何しててん」と言われぬように、責任世代として今からしっかりとまちづくりをしていきたいと思えます。

市議会議員36人の1人として、市政改革を行ってきました。無所属新人ながら、市議会でも30年ぶりとなる新しい会派を結成したり、思想信条を越えて、議会改革に結束したこともありました。その結果、「名誉の市議会」から「働く市議会」に変わりつつあります。

幹事長を務めた時、新型インフルエンザが猛威を振るいました。未知のウイルスに対策をとるべく、市議会を動かし、勉強会の開催、幼稚園・保育園への空気清浄機の早期導入が実現しました。また、空港問題調査特別委員会の副委員長の時、航路直下に住む被害住民との懇談会を30年ぶりに開催しました。そして、空港の利便性を享受している事業者との懇談会を市議会ですべて初めて開催し、これまで豊中市が避けてきた問題と向き合ってきました。そして、豊中市と伊丹市で運営するごみ処理場のクリーンランド議員の時には、資金繰りを見直し、将来にわたって6億円の節税を実現できる見通しとなりました。

このように、議員として積極果敢に市政改革にトライしてきました。しかしながら、36人の1人ではスピードが遅すぎます。6月に議論の場（一般質問）を設定するために、7年もかかりました。東京オリンピックをきっかけに大阪国際空港の国際便復活を提言しましたが、多数には至りませんでした。社会の変化に対応するため、国政や府政を動かすためにも、いつか私をオンリーワンにさせていただいて、働かせていただきたいと思えます。

住民として校庭緑化に取り組み、市内6小学校の芝生化に関わりました。うち1校は大阪府下（1015小学校）で2校だけの芝生化シンボル校を誘致することができました。その結果、幼稚園の園庭緑化が市の独自施策となり、現在1園が芝生の園庭となりました。

また、東日本大震災をきっかけにして、帰宅困難者体験訓練を実施しました。新御堂筋沿道の自治会や企業と協力し、今年3回目を迎えます。豊中市はもちろん、今は吹田市や淀川区など、近隣自治体も協力してくださっています。

行政主導の市政改革は限界に達し、「もう待てない」というのが市民の声であると同時に、政治主導の改革が求められています。そのためには、住民一人ひとりが発意し、行政を動かしていく決意が必要不可欠です。そうでない限り、豊中は決してよくなりません。

「今、豊中市の舵をきるために私ができることは、みなさんの選択肢になることです。大好きな豊中市のために何ができるのか、みなさんも一緒に考えませんか。」

## 2. 哀訴～なぜ選挙に行くのか

私は公民の先生として、教壇に立つことができます。若輩者ですが、どうか耳を傾けてください。年配の方には馴染みがないかもしれませんが、『公民』という科目が中曽根内閣の時に創設されました。日本の公民教育では「現代社会」「倫理」「政治経済」を学び、センター試験の選択科目にもなっています。『公民』の辞書的意味は、「国政に参加する地位における国民」であります。もう少しわかりやすく言えば、「政治に参加する日本人」ということになります。すごいことだと思いませんか？「日本国の言語」「数字の計算」「身体を育む」と並んで、「政治に参加する日本人」という科目があるわけです。教育って政治的中立なんじゃないの？って、疑問に思われる方もいるかもしれません。政治的中立とは「特定の政治思想に偏重しない」ということであり、政治を拒絶するというものではありません。したがって、私たちは「政治に参加する」ことを学び、単位取得をしないと卒業できません。しかし、ほとんどの方が義務教育を、多くの方が高等教育を修了しているにも関わらず、「政治に参加する」ことを実践できていないのはなぜでしょうか？国政選挙で投票率は60%前後、地方選挙だと30%を下回ることも珍しくありません。

「誰に投票していいかわからへん」「誰に投票しても同じやで」「選挙があるなんて知らんかったわ」という声をよく聞きます。たしかに、そのとおりです。私たちは教わるべきことを、教わっていないのです。日本の公民教育は Civic education と訳され、これは政治制度や経済原理など社会の仕組みを「知識」として学びます。だから、受験科目にもなるわけですね。しかし、欧米の公民教育は Citizenship education と訳され、前述の仕組みに参加する「方法」として学びます。これは日本の特有の状況で、株式の仕組みを多くの国民は知っているけども、株式投資をしている国民は多くないことと一致するわけです。

さて、『公民』が導入された趣旨は、国民に知識だけを植え付けたかったのでしょうか？違います。現行の学習指導要領では、「広い視野に立って、現代の社会について主体的に考察させ、理解を深めさせるとともに、人間としての在り方生き方についての自覚を育て、民主的、平和的な国家・社会の有為な形成者として必要な公民としての資質を養う」と記されています。わかりやすくいうと、日本を国際社会のなかでしっかりと保持できるよう、公共を支える国民・市民に育てることを目的にしています。

日本国憲法では参政権を認めています。あくまで権利を行使するかどうかを国民の判断に委ねており、その知識だけを教育しています。権利をしっかりと行使できるように教育する国もあれば、権利を行使すれば生活にメリットがあるような国もあります。一方で、参政が義務であり、投票に行かなければ罰金という国もあります。どのような国が望ましいかは別にして、どの国も「選挙に行くことは望ましいこと」と考えていることは間違いありません。それはなぜでしょうか？

仮に、あなたが日本の総理大臣だとします。日本は、勤労、納税、教育を受けさせる義務がありますから、総理大臣は心配しなくても、国民は働きますし、税金は納めますし、一定の教育水準は保たれます。しかし、まったく政治には興味がありません。日本の国を守るため、新しく採用される自衛隊員のために防弾チョッキを購入しましたが、自衛隊に志願する職員はいませんでした・・・どうしますか？

もし、あなたが豊中市の市長だとします。投票率を上げるために期日前投票所を10か所にする予算を計上しました。しかし、誰も投票には行きませんでした・・・どうしますか？

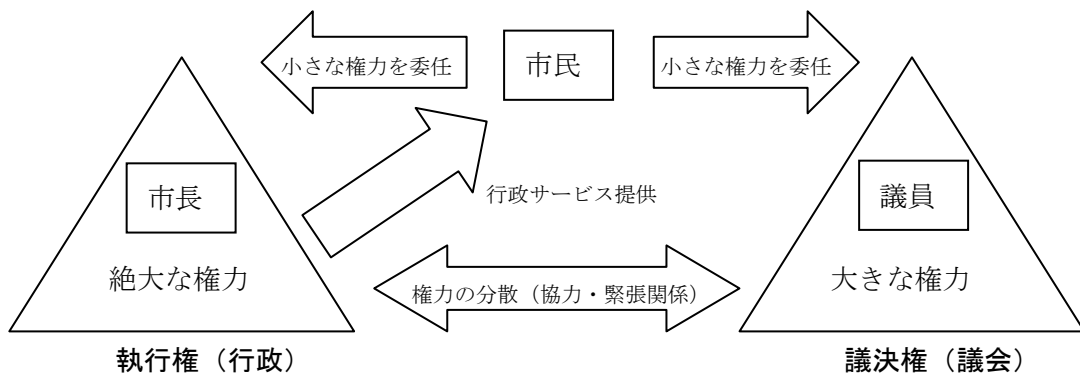
ありえない話ですが、こんな国や都市になってしまったら、いつか滅びることは間違いないありません。極端なことを言いましたが、1人の国民・市民に立ち返って考えてみてください。私たちは権利の選り好みをしていませんか？20歳になったら、酒を飲む、たばこを吸う、馬券を買う、パチンコに行く、親の同意なしに契約をしたり、結婚ができる、投票に行く。25歳になれば立候補もできますが、すべて権利です。「義務を果たしているからいいでしょう？」たしかにそれはごもっともなのですが、権利を選り好みする国民・市民ばかりになってしまっただけでは、前述のありえない話が現実になります。参政する権利は、他の権利と比べても直接的なメリットを感じません。だからこそ、私たちはとりわけ注意する必要がある、与えられた権利なのです。

「注意する必要がある」と言うのは、参政権は権利でありながら、私たちに与えられた権利の中でも、権力を委任する役割をもっています。権力なので、何が何でも行使すればいいというわけではありません。たとえば、立候補する権利があるからとはいえ、定数1の市長選挙に何百人も立候補したら、町中が選挙カーで騒音問題になります。そういう事態を防ぐために供託金制度があります。投票する権利があるからとはいえ、名字が同じというだけで投票する人を決めたり、「ど・れ・に・し・よ・う・か・な・て・ん・の・か・み・さ・ま・・・」で決めたら、たいへんなことになります。もう少し言えば、ポスターの顔だけで決めたり、マスコミが煽る争点だけで選ぶのも、危険は高まります。つまり、しっかり自分なりに考えて、自分の納得がいくように権利を行使しないといけません。したがって、たばこや馬券のように権利を行使して自分にメリットが得られるものではなく、むしろ候補者ごと、政策のこと、実績のことなど情報を収集し、自分で比較検討して、判断するという負担を強いるもので、間接的なメリット（国際社会の中では国家、日本社会の中では自分の生活圏を保持する）はあるにしてもわかりにくく、直接的にはデメリットにすら感じてしまう人も多くないのです。

こうした負担から逃げる人が多くなればなるほど、政治的怠け者が増えるということですから、日本が国際社会のなかで勝ち抜くことはできません。政治的怠け者が増えないために、公民科、社会科公民的分野は設置されているのです。

## 2. 哀訴～市の政治とは何か

政治は、国の政治と地方政治があります。国の政治のほうはテレビなどで目にすることも多く、みなさんもよく御存じのことと思います。ここでは地方政治、とりわけ市の政治についてお話しします。市の政治は二元代表制で行われており、私たちは市長と議員を別々に選ぶことができます。市長と翌月の議員を選ぶこともできますし、「あの市長はやりすぎだな」と思えば、市長に批判的な議員を選ぶこともできます。そうして私たちの小さな権力を分散させているのが、二元代表制です。



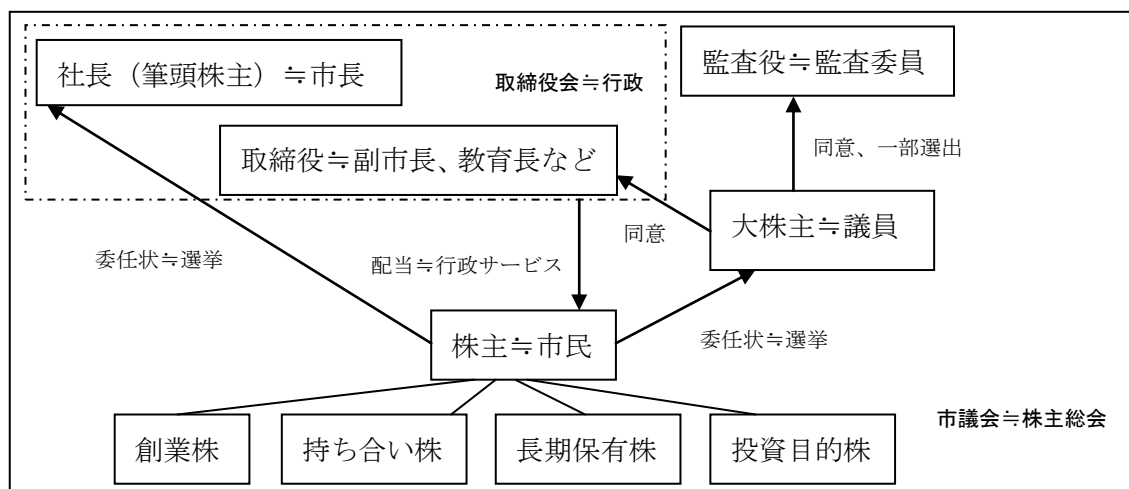
図のように、執行権は市長一人に帰属するので絶大な権力となり、約 4 千人近い職員を率いて、行政サービスを提供しています。一方、行政サービスの執行にあたり、予算や条例など重要な事項について、議決することが必要です。その権力は議員 36 人に委ねられており、権力は分散されています。その意味では、議員も大きな権力をもっています。

もっとわかりやすい例でいえば、市の政治は教習用自動車とっていいでしょう。運転席には市長が座り、ハンドルを握って加速、減速をします。助手席には議員が座り、別付のバックミラーやサイドミラーで、運転席と同じ光景を見ることができます。そして、助手席から道順を指示し、場合によっては助手席ブレーキを使って車を停止することもできます。後部座席には市民のみなさんが乗車しています。首を動かして、窓をのぞき、運転席や助手席に対して、行き先を指示したりします。この車は地方自治法や地方教育行政法などの法律を守って運転されるため、スピード違反などは国によって取り締まられます。また、豊中市の場合はガソリンの 6 割を国による交付金、補助金などで購入し、走ります。

問題は助手席に座っている議員が 36 人もいて、後部座席には 40 万人もいるということです。後部座席には色々な意見がありますので、なかなかまとまりません。36 人の助手席では多数決でブレーキを踏むか踏まないか決めるので、踏んだことはありません。結局、運転席に委ねてしまい、教習生が迷惑なくらい低速運転していても、誰も気づきません。暴走して事故でも起こさないかぎり、問題にはなりません。



後部座席のことについて、もう少しお話をしたいと思います。市の政治を一つの会社に例えるとこんなイメージになります。



株にも様々な株があるように、株主にも色々な方がいらっしゃいます。まず創業株主ですが、豊中市が市制施行した時はもちろん、豊中市の公共施設を建てる時に土地を譲っていただいたり、先祖代々豊中の地にお住まいの地権者です。つぎに持ち合い株ですが、会社は大口取引先と株の持ち合ったり、従業員持ち株会社が自社株を保有したりします。豊中市の公共事業や委託事務を請け負う会社の方や市の職員がこれにあたると言えます。次に長期保有株ですが、資産の一部として、配当や株主優遇を受けるために保有します。豊中市に持ち家をもって生活したり、地域で自治会役員や民生委員などの公職をお務めいただき、豊中市から転居する可能性が小さい方がこれにあたると言えます。次に投資目的株ですが、売買を目的として保有する株のことを言います。通勤族で豊中市に住むのは一時的と決まっている人、親と同居しているがいずれ転出するかもしれない人などがこれにあたります。最後にフリーライダーがいることも申し添えておきます。友達から株主優待券をもらったことがある人もいるでしょう。ウィークリーマンションなどにお住まいで、豊中市に住民票をおかず、納税することなく、行政サービスを受ける方がこれにあたります。

フリーライダーはさておき、創業株主、持ち合い株主ほど投票に参加する意欲が高く、投資目的株主ほど、投票に参加する意欲が低いのが現実です。もちろん、委任状争奪戦によって大株主となった市長や議員が運転席、助手席に座りますから、株主の利益につながるように都市は運営されていきます。しかし、本当の会社は株主よりも顧客へ向いて仕事をします。配当のために利潤を追求しますが、株主よりも株価を気にします。株価で会社の価値が決まるからです。

豊中市の価値を高めて、豊中に住みたい人を増やすために、市と利害関係がある人には目先の利益を考えずに、思い直してほしいです。投票に行かない人には参加してほしい。そうでないと、一部のために会社が運営されます。株価が高まるように、株主全体のために会社がより大きな利潤を得ることができるよう、株主総会に参加してほしいわけです。

### 3. とよなか創政記

池田市といえばダイハツ、箕面市といえば大滝、豊中市といえば？

池田市といえばウォンバット、箕面市といえば猿、豊中市といえば？

池田市といえば呉春、箕面市といえば地ビール、豊中市といえば？

都市間競争が激しくなる中で、豊中市としてPRできるものがないのは致命的です。

豊中市に眠っているブランドを発掘しつつ、目指す都市像をはっきりさせたい。

財政再建の後に豊中市の特色づくりとして4つの都市像を描いていきたいと思います。

## スポーツ健康都市      美食と音楽の都市

## 緑と水の都市      教育文化都市

豊中ドクトリン※ドクトリン (Doctrine) とは政治における基本原則。

#### これまでの豊中市

豊中市は西日本最大の大阪市と近接する衛星都市で、住宅都市として発達してきました。人口は最盛期で41万人を突破し、「大阪市内に働きに出て、豊中市に税金を払う」という出稼ぎ構造が構築されました。人口が増加傾向であるときは、豊中市の税収の50%超を市民税が占め、潤沢な財政基盤から都市基盤（道路、上下水道、市立施設）を整備し、手厚い行政サービスが実施されてきました。

#### 現在の豊中市

市内全域が市街化し、人口がこれ以上大幅に増加することはありません。さらに、少子高齢社会のなかで人口は40万になり、2020年には35万人になると推計されています。高齢化率は22.0%（全国平均22.8%）となり、市内格差は36.7%～14.7%と大きく、1999年以降、市税収入に占める市民税の割合が50%を下回っています。このように出稼ぎ構造が機能不全になり、このままでは現状の都市基盤、行政サービスを維持できません。

#### これからの豊中市

豊中は「働きに来る町、遊びに来る町」になるという構造改革が必要で、財政再建が急務です。35万人という人口規模に見合うように市有資産を見直し、選択と集中の施策を実施していかなければ、根本的な財政再建は困難です。そして、新しい豊中市の収入構造をつくるため、これまでの有形無形資産を活用し、魅力ある豊中づくりを行わなくてはなりません。若者、子育て世代の定住化を促し、高齢化の進行を抑制しなければなりません。

## 健康スポーツ都市

- ① 豊中市は**高校スポーツ（野球、サッカー、ラグビー、アメリカンフットボール）の発祥地**です。これらの第一回大会は豊中市で開催され、甲子園、国立競技場、花園ラグビー場の起源は、今はなき豊中球場です。これらを豊中の強化スポーツと位置づけ、**球場や芝生のグラウンド整備**を積極的にすすめていきます。また、こうした史実をもっとPRし、官民一体となった施策展開、関連する商品開発や販売をしていきたいと思ひます。
- ② 現在、豊中市が誇る高校スポーツは**チアリーディング**です。箕面自由学園、梅花高校のチアリーディング部は日本屈指のチームであり、全国大会の決勝戦同士の共演が、豊中市の千里体育館でも見られることはあまり知られていません。学校教育とも連携し、**市民スポーツとして、チアリーディングのすそ野を広げていきたい**と思ひます。
- ③ 若者の間で広がっている**ストリートダンス**。豊中市主催の**高校生ダンスフェスタ**では市内外から若者が集まり、市民会館の大ホールが満員になるほどの盛況ぶりです。また、高齢者の間では健康体操が流行しており、とりわけ**グランドゴルフ**は大人気です。**若者が汗をかくて青春をすごし、高齢者が元気で長生きできるきっかけとして、スポーツをつうじた健康づくりに力をいれていきます。**
- ④ 豊中市には立派な**武道館**があり、立派な3面とれる120畳の**柔道場**が一つの魅力です。また、大阪では先駆けて**弓道場**を整備してきました。**柔道、剣道、弓道といった日本武道を大切に**していきたいと考えています。文武両道の子どもたちを育み、健全育成につなげていきます。

## 美食と音楽の都市

- ① 豊中市には**大阪音楽大学**があり、**音楽家に恵まれた町**です。したがって市民の間でも音楽は浸透しており、豊中市合唱協会は創立50年、豊中市青少年吹奏楽団は創立40年、豊中市消防音楽隊は創立30年を経過しています。こうした音楽にまつわる市民文化を活かして、まちなぎわいを創造していきます。
- ② 豊中市には**野外音楽堂**があり、**日本センチュリー交響楽団の本拠地**になっています。あまり知られていないのは、服部緑地が大阪府の管轄になっているからです。将来的な展望として、**大阪府から服部緑地の移譲を受け、ここに音楽の拠点づくり**をしていきます。
- ③ 豊中市立中学校の吹奏楽部は全国でも優秀な成績を修めていることに加え、豊中ユース合唱祭が行われています。また、音楽に対して理解の深い奉仕団体に恵まれ、さくらコンサートが開催されるなど、市民が支える音楽が成熟しています。こうした市民力を活かして、「**音楽のまち、とよなか**」に**ふさわしいホールを整備**します。
- ④ 美食家で有名な北大路魯山人さんがつくった**大阪星岡茶寮**は、豊中市にありました。そして**ミシュランガイド**に掲載されるレストランが豊中に所在します。美食を通じ、観光や行楽として、人が集まるための工夫をしていきます。また、**トレーサビリティ**にもこだわり、給食の安全と美味しさを追求していきます。

## 緑と水の都市

- ① 豊中市歌をご存知でしょうか？「緑の都、豊中市」というのがキーワードになっています。しかしながら、豊中市が緑の都であったのは、今は昔の物語。そんな豊中市を緑あふれる町にしていきます。**校庭緑化、屋上緑化、壁面緑化**など官民一体となって、みどり率を高め、地球環境の保全と癒しのまちを目指していきたいと思います。
- ② 豊中市の市有緑地には竹林が多いです。こうした竹林を整備し、市民ボランティアの方とも協働しながら、**竹ブランド**を築いていこうと思います。竹細工はもちろん、竹炭や竹チップ肥料などを商品化していき、竹林整備にあてます。生産された「たけのこ」は給食に利用したり、商品化していきたいと思います。
- ③ 豊中市は独自で取水して浄化し飲料水をつくる技術もっています。また、大阪府と兵庫県から委託されるだけの高度な汚水浄化技術もっています。こうしたノウハウを活かし、2025年には世界全体で100兆円市場と言われる**水道事業の国際化に取組み**、水ビジネスで歳入を確保します。国内では川崎市や大阪市などが先駆的に取り組んでいます。
- ④ 緑と水に親しむまちづくりをすすめ、**緑が目につく景観、美しい小川**を目指します。また、植生を守るための在来種の保護、野生動物の保護にも努めていきます。大きくは地球環境保全に取り組み、ゴミの削減、中古品としての再利用、使えなくなったものの再資源化を徹底していきます。

## 教育文化都市

- ① まちの活性化は若返りです。若い人が集う豊中にするため、学校教育を充実させていきます。**小中一貫教育**はもちろん、府から権限移譲をうけて**中高一貫教育**も視野に入れていきたいと思います。また、通学区域を設けない学校、統廃合による新設校の検討も進めていきたいと思います。豊中の将来を担うリーダーの育成を目指します。
- ② 安心して子育てできる町を目指すため、顔の見える地域づくりを目指します。**世界一を誇る豊中の救命力**を堅持し、大震災にそなえた防災力を育むため、まちづくりに積極的な地域から、予算提案権を付与します。地域と繋がらないで生活することは災害時に混乱を招くので、自治会へ参加する市民文化を築いていきたいと思います。
- ③ **就学前児童に対する子育て支援**をバックアップするため、幼保一元化を見据え、民間事業者と連携した行政体制を整備します。**豊中は公文式の発展地**であることから、公立学校と民間事業者とが連携して、学習指導の充実を図ります。また、補導センターの機能を拡大し、0歳児から成人までの成長に責任をもてる生活指導体制を整えていきます。
- ④ 文化財、伝統芸能などを守るのではなく、積極的に活用します。**手塚治虫さんの生誕地**であることからアニメや漫画を通じてまちを活性化していきます。また**三島由紀夫さんゆかりの地**であることから、子どもたちの読書活動を推進し、図書館行政の見直しを図ります。**ノーベル賞を受賞された南部陽一郎さんが名誉市民**であり、**東洋初のロボット学天則を発明した西村真琴さんゆかりの地**であることから、科学教育を推進します。

## 2. みんなが豊中のために、豊中はみんなのために

ラグーマンの精神に「One for all, All for one」というのがあります。それを私なりに翻訳して、基本理念としました。ここでいう「みんな」とは、市民はもちろん、通勤通学で豊中市を利用される人、豊中から巣立っていった人、豊中に関わる人の総称です。豊中に関わる一人一人が、豊中を再生しよう意識していただかないと、町は変わりません。そして、町が関わってくださる人のほうをむいていかないと、意識は成熟しません。

江戸時代をみると、当時で百万人の人口を抱えた江戸にいたお役人さんは 300 人にも満たなかったそうです。これだけの人数で、消防、警察、裁判、役所の仕事など、どうやって町を動かしていたか。年貢の徴収など実務の大半を名主などの住民に委託し、町役人、村役人として活躍されたそうです。

豊中市にはそれに近いことが行われています。公民分館や校区福祉委員会という制度があり、地域行事などを地域のみなさんが担ってくださっています。もうひとつワンランク上の制度にして、街灯をなおす、道路を掃除するといったことまで、お願いできないでしょうか。もちろん、かかる費用は市が負担します。地方分権時代の「地域分権」です。地域のみなさんが話し合っ、みなさんでやっていただくことで、みなさんが求めている順序で行政サービスが提供されるようになります。高度成長で税収が右肩上がりの時は、なんでも市役所ができました。しかし、人口減少社会では限られた税収を配分するにあたり、きめ細やかなサービスはこれからも難しくなります。したがって、方向性は市が決定し、地域のみなさんに権限を委譲し、知り合いなどを通じて、できるだけ安価にやっていきましょう。

豊中のためにご尽力いただいているみなさんには、心から感謝しなくてはいけないと思います。これまでの豊中市を築いてくださった先人には敬意を表します。しかし、築かれた一部分が時代に合わなくなったことも事実です。過去に固執するあまり現状維持や変化を求めない現状では、閉塞感から突破できることはありません。とくに豊中市域の 100%が市街化され、社会の変化とともに、私たちの暮らしが大きく変化するなかで、「豊中らしさ」を感じる部分は本当に少なくなってきています。「豊中市に住んでよかった」と思える、「豊中ってこんないいところがあるよ」と言いたくなる、そんな誇れる町にしていくためには豊中市が、利害関係者だけでなく、みんなのほうを向いて仕事をしなくてはなりません。市と利害関係にある「声の大きな少数意見」だけでなく、利害関係のないサイレント・マジョリティー（声なき多数意見）を意識して、市政運営を行っていくべきだと思います。

# 豊中を元気にするための4つのトライ

## トライ1. 子どもが笑う、大人が喜ぶ豊中に

### ■明るく豊かな生活がおくれる豊中に

- ・将来世代に負担を残さない財政運営 → 収入の範囲内で予算を組むことを前提に
- ・若者が結婚、出産しやすい環境整備 → 就労支援、結婚支援、子育て減税
- ・元気で長生きするための高齢者支援 → 予防医学普及、健康サポートの実施

### ■安心して子どもを産み、育てられる豊中に

- ・共に働き、共に子育てできる保育環境整備 → 放課後子どもクラブの充実
- ・家庭教育を徹底するための支援 → 家庭訪問、子育て相談業務の実施
- ・幼児から成人までの健全育成 → 補導センターの業務拡大、就学前児童課の設置

### ■子どもが夢をもてる豊中に

- ・義務教育の多様性と充実 → 幼保と小学校の連携、小中一貫・中高一貫教育の実施
- ・教育環境の整備、マンパワーの充実 → 人事権の移譲をうけ、採用時から人材育成
- ・夢をもった子どもを育てる学校教育 → (仮称)教育指導内容提案制度の整備※

※先生が個人、チームで実施したい授業(学習指導案)を提案し、審査を経て交付金支出。

## トライ2. 財政を健全化し、減税を目指す豊中に

### ■人件費は経常収支比率構成比の30%未満に

- ・職員の優秀な人材確保のため給与水準の向上 → 職員定数削減、諸手当の見直し
- ・将来に負担を残さない職員体制を整備 → 退職手当分割支給、退職手当基金の創設
- ・職員の雇用のあり方を多様化 → 社会人採用、試用期間やインターンシップの実施

### ■市有資産の有効活用と売却、不良資産の議論

- ・学校の空き教室の貸出、公共空間を利用したイベント → 歳入の増加を図る
- ・市有資産をゼロベース(無いものとして考える)で見直し → 不要なものは売却
- ・市有資産をフル活用した歳入確保 → 屋外広告、命名権譲渡などを検討

### ■毎年、一定額を積み立てる財務構造に

- ・災害などの支出に備えていきます → 財政再建後、市税収入の一部を積み立てます。
- ・積立金の効率運用 → 減税や公共料金を引き下げる自治体を目指します。
- ・公会計の明朗化 → 入札差金は、とりあえず財政調整基金に戻入する。

### トライ3. ものづくりと商いが栄える豊中に

#### ■ブランド力のある豊中に

- ・集客力のある豊中の実現 → 兄弟都市の沖縄市と姉妹都市サンマテオ市との連携強化
- ・「ものづくりの町、とよなか」としてのPR → 積極的な企業誘致
- ・阪急、モノレール、北急でとよなか回廊の実現 → 横断交通のコミュニティバス実施

#### ■中小企業を支える豊中に

- ・府下第五位の事業所数を支援 → ビジネスマッチングのための見本市を開催
- ・消費喚起による産業支援 → 消費拡大キャンペーンの実施
- ・豊中ブランドの共同開発や商品PR → 豊中発の起業支援、アンテナショップ設置

#### ■消費したくなる豊中に

- ・食を活かしたにぎわいづくり → 豊中ミシュランガイドの製作、B級グルメの奨励
- ・トイレットペーパー騒動、コンビニ発祥地 → マイバッグ推進など消費行動の最先端
- ・大阪星岡茶寮の史実をもとに → 一流の素材とシェフによる美食レストランを検討

### トライ4. 愛を感じ、誇れる豊中に

#### ■世界にはばたく豊中に

- ・百兆円ビジネスと言われる水ビジネスに取り組みます → 上下水道局の民営化を検討
- ・教育における姉妹都市サンマテオ市との連携 → 交換留学、語学力の向上
- ・市民の国際交流を盛んにするための取組み → 外国人議会の開催
- ・ロシア領事館との連携 → 外国人との市民交流を図る

#### ■政治が動く豊中に

- ・市長と議員の政治主導で豊中の未来を検討します → (仮称)豊中市政懇談会を設置
- ・市長と市民が意見交換できる場を設定します → タウンミーティングの開催
- ・各専門分野から豊中市に助言いただきます → 豊中市政顧問の設置

#### ■人に恵まれる豊中に

- ・豊中出身の著名人による講演を定期的で開催 → 豊中トークリレーの実施
- ・市役所に優秀な人材が集まる取組み → 大学生の官庁訪問、インターンシップ受入
- ・豊中のために活躍してくれる人材の育成 → 若者世代への投資を検討
- ・定住化を促進するための施策 → 単身赴任世帯への支援
- ・社会的弱者の支援 → チャリティー精神の普及と持続可能なセーフティネット

## 4. 大阪国際空港について

過去の議論の積み重ねで議論する豊中市、世界を俯瞰して理念で発信する大阪府。責任者である国は、大阪国際空港の縮小小型化、廃港を視野に入れています。大阪国際空港とともにしてきた 11 市協は足並みが揃わず、10 市協になりました。

関西国際空港と大阪国際空港は経営統合され、今年度中にも民間に売却される方向です。伊丹廃港と関空の活性化を訴えた泉州地域と、大阪国際空港の活性化を主張する 10 市協は手を結び、国をこの議論から逃げさせないために必死です。

この議論はとても大切で、マスコミが報道する時だけ過熱してはいけません。基礎自治体から「廃港を求める」ことはないことを打ち出し、しかしながら、「廃港はあり得る」という覚悟をもって、将来に対する責任世代として、いまできる施策をしなければならぬと考えています。

大阪国際空港が廃港にならないためには、3 つの条件が必要と考えています。

### ●大阪国際空港から関西国際空港までを直通 30 分以内

関西国際空港が関西三空港の中心であり、国家として活性化する方向性は変わりません。この現実のなかで、大阪国際空港と神戸空港がどのように補完的な役割を果たせるか、存在意義が問われます。

水上交通によって、神戸空港は関西国際空港と所要時間 29 分で結ばれ、関空と国内線の住み分けが可能ですし、国際線⇄国内線の乗り換えも可能です。海上空港のため 7 時以前、22 時以降の離発着も行われており、騒音被害もありません。また、阪神なんば線の開通で、奈良県から近鉄が乗り換えなしで三宮へ連絡しています。

神戸空港に負けないためにも、大阪国際空港の地下から JR 伊丹駅まで新路線を開通し、JR 宝塚線→JR 神戸線→なにわ筋線（予定）→南海本線を結び、30 分以内で関西国際空港へアクセス可能にする必要があります。

### ●利便性の向上～国際線の復活と運用制限の緩和

狭軌鉄道で JR と南海を結ぶなにわ筋線が開通すれば、梅田から関空まで直通 37 分と試算されており、アクセスは改善によって、京都、滋賀、奈良からの大阪国際空港利用は減少します。そして、2027 年に名古屋～東京間のリニアが開通すれば、伊丹～羽田便の利用は減少し、2045 年に大阪～東京が開通すると、騒音対策費（年間およそ 100 億円）と採算がとれなくなり、「儲かっている空港」という存続する大義名分がなくなります。伊丹～羽



田便が減少しても採算がとれる収益構造にするためには、国際線の復活しかありません。

昭和51年以降、21時から7時までのダイヤ廃止という形で対応してきましたが、大阪国際空港は平成18年まで24時間空港でした。しかしながら、ついに国は運用時間を14時間に短縮しました。世界では国の基幹空港は24時間空港が当たり前の時代、日本の地方空港でも14.5時間以上が常識で、全体として運用時間が延長される傾向のなか、大阪国際空港の運用時間は短縮される現実があります。

私たちにとって利便性の高い空港ですが、全国で一番早く閉店する大阪国際空港では、これから先の航空行政のなかで、見捨てられていく可能性があります。航路直下に位置する豊中市が運用時間の拡大を受け入れる覚悟が必要です。

### ●「大阪国際空港の存続を求める意見書」が全国の空港都市から採択

近隣市の首長が廃港に一定の理解を示し、大阪府議会でも各会派から廃港を視野にいれる意見書が提出され、大阪府内でも大阪国際空港の永続的な役割は見失われつつあります。したがって、大阪国際空港と路線を張ることは地方都市の経済にとっても意味が大きいはずですから、全国から国に対して声をあげてもらわなければいけません。

しかしながら、大阪国際空港のダイヤは大阪から往復するのは利便性が高いわけですが、路線である就航先からは利便性が低いのも事実です。たとえば、大阪～沖縄便ですが、朝に沖縄行、夜に大阪行が設定されていても、沖縄の人からすると、大阪に一泊するスケジュールで大阪国際空港を利用しなければいけません。

こうした3つの条件を整えることが、現在の時間軸にたった現職の責務です。私の提言によって、就航都市に市長がトップセールスをし、全国の世論を創り上げつつあります。

豊中市では防災拠点空港としての位置づけなど、議論は行われていますが、議会は足並みが揃いません。

2019年ラグビーW杯、2020年東京五輪という国を挙げての国際行事を控え、この機を捉えて国際便の復活を実現しなければならないと訴えています。しかし、道のりは険しく、今のままでは、将来において休港、閉港、そして廃港になる可能性を否定できません。

## 5. 大阪都豊中市よもやま話

東日本大震災によって、津波の影響を受ける海上空港の問題が明らかになりました。この点からすると、大阪国際空港の必要性は再認識されたわけですが、現実問題として、関西経済の活性化にむけて、外国のエネルギーを吸収する入口は阪神港と関西国際空港であることは間違いありません。LCCが就航に加え、物流大手のフェデックスが関空を拠点にしたこともその根拠と言えます。

一方で、万が一にも大阪国際空港で航空機事故が発生すれば、世論は一気に廃港に傾くでしょう。伊丹の跡地について、今上がっている危機管理都市、国際文化都市、副首都などのアイデアがありますが、具体性に乏しいまま、それだけで未来が明るいというような展望では、基礎自治体として承服できません。

なぜなら、大阪国際空港は途方もなく広大な土地であるということ。空港面積の約2割が豊中市域ですが、その2割の部分だけで服部緑地とほぼ同じ面積です。その面積だけで十分に危機管理機能も、副首都機能も、カジノや国際施設も建設可能です。豊中が副首都の中心として、危機管理庁などを国が創設した場合、誘致することは有意義なことです。

しかし、残りの8割はインフラも整備されていないし、人口減少社会の中で宅地開発はありえないでしょう。また、大阪国際空港の地下には遺跡が眠っています。ジャンボ機就航の際に滑走路を拡張した際に遺跡の一部が出土し、発掘調査のために開発工事はストップしました。このことから考えると、廃港後に開発行為にかかってみたところ、遺跡が出土すれば、開発もできないまま地元経済は疲弊します。

私は基礎自治体として、跡地利用を考えたときに求められることは、①災害時に海上空港が使えなくなった時の危機管理、②地元の雇用③地元の税収という3点です。これらを満たす案がたった一つだけあります。それは**広域防災と危機管理の観点から陸上滑走路を一本残し、国の基幹産業と位置付けられた航空機産業としての企業誘致でないか**、と私は考えています。

関西は神戸港、大阪港があつて金属工業が盛んですし、ダイハツ本社など自動車産業や重工業が支える企業力が背景にあり、豊中市はものづくりの事業所数で大阪府下第5位という下請けもできる土壤にあります。また、大阪国際空港のそばには名神や中国道のインターチェンジがあり、ICなどの精密機器の輸送にも最適で社会インフラに恵まれています。

**航空機産業に進出しようとする企業を誘致し、地元で雇用を創出して航空機を生産する。**もちろん地元には税収が入ります。生産された航空機は滑走路を使って出荷するため、万が一、海上空港が機能不全になった場合には、これを利用して着陸できるのです。

また、副首都になった大阪都で国際会議が開かれる場合、この滑走路に各国の政府専用機が着陸します。豊中市に設置された国際会議場などで会議が行われ、豊中という名前は世界に広がります。

自動車で世界一となった日本は、次は航空機で世界一を目指してはどうでしょうか。そして、豊中から日本を、世界を動かす会議を開いてもらったら、どうでしょうか。それを大阪府、豊中市からスタートできるなら、夢のある話です。

～あとがき（2010.4.28）～

空港の存続・活性化を主張するのは現状維持ですから簡単です。豊中市議会のほとんどが議論もせず、存続・活性化を主張しています。私も活性化論者ですし、豊中市議会には廃港を求める議員はいません。

しかしながら、伊丹市や池田市には議論できる、調査研究している議員さんがいます。そういう人たちとともに、私は活性化を主張するだけの責任として、活性化できなかった時に廃港になる可能性を否定しません。そして、それが現実になったとしても、豊中市をはじめとする基礎自治体が夢をもち、明るい未来を描き、豊かになれる案を提示しなければいけません。

これは存続 vs 廃港の簡単な図式で形容できるものではありません。マスコミ報道だけに左右されず、みなさんが真剣に考えていただかなければならない問題なのです。

～あとがき（2014.4.28）～

市長選出馬騒動から4年が経ちました。あれだけ世間を騒がせた廃港の議論はなく、関空と伊丹の経営統合、そしてまもなく運営権売却、空港は急激な変化を遂げています。しかし、市議会は依然として動きません。2020年を目途に国際便を復活させなければ、座して死を待つ空港になるかもしれない、そういう危機感が市議会にはありません。

一人の議員として忸怩たる思いです。こうした時勢、私の気持ちを残すべく、「あとがき」は追記する形にしました。4年が経ちましたが、私の思いは4年前と変わりません。

市長選挙は無投票になり、補欠選挙のみ行われました。過去最低の投票率を記録し、市民からは「こんな無駄な選挙しなくていい」「補充せずに議員を減らせ」とたくさんの声をいただきました。感情的には甘受しますが、議員としてしっかりと申し上げると、「私たちには被選挙権があり、万人がその権利を行使できる環境を整えているわけですから、ご批判は本末転倒です」与えられた民主主義のせいでしょうか、日本人はもっと権利を大切にしないではいけません。（権利を行使するかどうかはべつとして）